

1 年生 総合科目 クラス指定 有機反応化学（尾中篤） 試験問題について

過去問が現存する 2003 年度、2005 年度とは問題の傾向が変化しているようです。（過去問より難化しています）

2016 年度の問題については、試験問題と解答用紙が一緒になっているために過去問として残すことはできませんでした。

私個人の印象としては（力学と線形代数の試験と同日なので手が回らない人の方が多いと思います）、きちんと授業を聞いて、反応の意味などをしっかりと理解しておけば点数になったのかもしれないという感じです。（かくいう私は残念なことに落単が見えております）

「次の  $\text{SN1}$  反応の生成物を予測せよ」という問題は出ないと思って勉強しておいた方がいいです。どのような条件下でどの触媒でどの反応が起きるのか、ということまできちんと理解しておいた部分が得点につながるように感じました。

あと、記述問題が多いです。生成物を予測したあと、その理由を書かせたり、今年（2016 年度）は、環状で二重結合を持つアニオンの構造式を与えられて、2 つを比較したとき 2 つの二重結合を持ったアニオンの方が安定なのはなぜか、という問題が出題されたりしました（非共有電子対をもつために、その部分が  $\pi$  電子となりヒュッケル則を満たすから）。

後輩の皆さんがつつがなく単位をとれることを祈っております。

覚えている限り…

- ・  $\text{Br}_2$  付加

- ・ 2-ブロモペンタンをアルケンにする。末端が二重結合にならずに端から二番目の結合が二重結合になる理由（エネルギー図を利用して、2 段階の山を越える場合と 1 段階の山を越える場合）

たしか 1 段階の山を越える場合というのは、ナトリウムメトキシドと 2-ブロモペンタンの反応についてだった。 $Z$  配座になるかもう片方になるか、その理由も。

- ・ 芳香属性（二重結合以外にも  $\pi$  電子が存在している場合まで理解しておく）

結構問題数あったのですが記憶があいまいでした。